

力みなぎる 行田の農業



本市は、地域の約半分が農地として耕作されている穀倉地帯であり、利根川と荒川に挟まれた肥沃な土地を利用して、米をはじめ麦や花きなど多種多様な農産物が栽培されています。しかし、農業就業者の高齢化や後継者不足、食料自給率の低下など、農業が抱える問題は、ここ行田でも例外ではありません。

そこで、市の基幹産業である農業をもっと魅力的なものとするため、市では地域の活性化につながる元気な農業を目指し、さまざまな取り組みを行っています。

日本一を目指す

田んぼアート

田んぼをキャンバスに見立て、複数の色彩の異なる水稲を植え、絵や文字を表現する田んぼアート。行田のおいしい米や「観光地・行田」のPRを目的に、平成20年度から始めたこの事業も今年度で、3年目を迎えました。

最初は約20アールだった面積も平成21年度は約60アール、そして今年度は約130アールと年々その規模を拡大しました。今年の図柄は、映画化が決定した和田竜氏著の歴史小説「のぼうの城」のカバーイラストに描かれている「のぼう様」と成田長親（オノ・ナツメさん作）と



「観光地・行田」のPRに貢献している田んぼアート

般公募で応募された作品「忍城」。6月6日に市内外からの参加者377人の手により植えられた苗がすくすくと成長し、巨大なアートとなって古代蓮會館を訪れた方々を楽しませ、「観光地・行田」のPRに貢献しています。

現在の面積は関東最大ですが、平成23年度はさらに面積を拡大し、日本一を目指す予定で、「農業のまち行田」を全国へアピールしていきます。

行田の朝は

軽トラ朝市で決まり

「新鮮な農産物を皆さんにお届けしたい」という思いから始まった行田軽トラ朝市。農家の方が朝採りした農産物を軽トラの荷台に積み込み、直接消費者に販売するもので、テレビなどで取り上げられることも多くなってきたイベントです。

これまで2回開催しましたが、地産地消が叫ばれている昨今において、生産者の顔が見える安心・安全な野菜などを手ごろな価格で購入できるとあって、来場者から好評を得ています。また、出店している農家の方も、消費者との交流を通して農産物を作り、売る楽しさを実感できると、意欲的に参加されています。

早くも第3回の開催が決まりました。第3回は新鮮な野菜や果樹などはもちろん